

日本一短い妖怪ストリート

新潟妖怪研究所

はじめに

「妖怪は文化だ」というキャッチコピーで産声を上げた新潟妖怪研究所は200人を超す個人会員が集まり、活動の輪が広がっている。新潟妖怪研究所の高橋郁丸所長は民話の数の多い新潟は妖怪の数も日本一。その貴重な情報を活かしてこれから様々な活動を起こしていくための取り組みを平成25年度は実施した。日本一短い妖怪ストリートが産声を上げた。新潟の妖怪たちを知ってもらう取り組みがスタートした。反響は大きく、地域の新聞雑誌TV、他県のメディアもとりあげていただいた。日本一短い妖怪ストリートと同時にマスコットの三角だるま火の玉くん制作体験も各所で実施した。妖怪ストリート展示用に7月末には万代市民会館内の児童センターで実施。人気を博した。その後は佐渡汽船の中や、各地の催事の中、あるいは妖怪ストリートを管理するナジーラでも実施。皆さんに楽しんで頂いた。この頃からお守りとして何らかの取り組みはできないかと模索が始まった。9月にGPS機能を駆使した妖怪ナビをテクノクラフト(株)と新潟妖怪研究所と一緒に取り組み、妖怪ストリートから逃げ出した妖怪たちをスマホで親子や友だちと一緒に探すと探すと探すとというゲーム感覚の企画を実施することとなった。アプリを制作など制作期間に2カ月を要して12月に実施の運びとなる。丁度クリスマスシーズンとも重なって、スマホ片手に古町の各店舗を訪れる家族連れや若者でいつもの時期より賑わいが出たように感じられた。妖怪たちをスマホに取り込んで最後はニコニコ写真を撮ったり、抽選に臨んだり、妖怪クリスマスツリーに願い事を書いたりナジーラ内はとても和気あいあい。この企画を見つけた3Fの市民活動支援センターでは2月のキッズフェスティバルに使いたいと話が進み、2月にも同様に1Fのナジーラと3Fの市民活動支援センターで妖怪ナビが再度登場することとなった。1月に入って、三角だるまのお守りの話も進み、招福三角だるまの制作に向けての動きが進み始めた。参考は高崎のだるまさん、色選び、お守りの種類など、文言の選定などに結構時間が費やされた。結果、三角だるまのサイズも3種類5色の三角だるまが登場することになった。2月8日・9日はキッズフェスティバルに参加。妖怪ナビと三角だるま絵付け体験を実施する。全体での参加者は2日間で500人程、三角だるまの絵付けも人気があり、一つ目など個性あふれる作品が作られていた。3月16日に村上市で仮装のパレードがあると聞き、新潟妖怪研究所で参加する。日本一短い妖怪ストリートの宣伝も兼ねての参加で、全員が妖怪のお面を付け、お坊さんの托鉢の衣装に身を包んで参加した。毎日新聞の貴社の方も同行取材をし、参加5人が1時間ほどのパレードに参加し、新潟の妖怪たちをアピールした。多くのイベントを実施したり、たくさんの人から参加頂き、新潟の妖怪たちの存在をアピールできたと思う。

活動の記録

7月 日本一短い妖怪ストリートのキャラクター三角だるま火の玉くんの制作
万代市民会館内 児童センター



三角だるまが
起き上がりこぼし
であることを
全く知らない
子どもたち。
制作後は
楽しく遊びました

8月 日本一短い妖怪ストリート オープン

8月3日は本町商店街などで燈籠まつりが実施され、妖怪研究所も多くの燈籠をつかって、本町からの誘客を図った。児童センターで子どもたちが手作りした火の玉くんを妖怪ストリートの店内のナジーラで展示。かつての郷土玩具としてどこの家でもあった三角だるまがまた新しい形で登場した。良寛さんの夢に登場した三角だるまも妖怪たちのお仲間らしいです。

西堀 善徳前	ナジーラ内
アーケード照明飾り	妖怪まわり行燈設置～7日まで 協力 越後大塚からくり館
観き看板	妖怪風演奏会 妖怪ぼなし
妖怪灯籠	妖怪うら～飯メニュー
妖怪花壇	妖怪用品販売(うけくろクッキー、お守りなど)
妖怪風車	妖怪三角だるま展示 (小学生の作品展覧会との連携)

新潟妖怪研究所の会員や
当日の燈籠まつり参加者などで
賑わった除幕式。
顔出し看板も人気です。



からくり人形の展示を実施

8月 佐渡汽船内で三角だるま火の玉くんの制作体験



村上市でも体験 好評で2回実施



9月 万代あそびフェスティバルに参加(児童センター主催)



10月 妖怪ナビ 打合せ 企画会議 アプリをダウンロードして、スマホで妖怪をつかまえる



11月 妖怪ナビのチラシ等制作&クリスマスツリー設置



妖怪クリスマスツリー、雪をイメージして白に

チラシの制作、12月の段取、商店街との打ち合わせ等を実施

12月 妖怪ナビを実施



小さなお子さんはスタンプラリー

1月 三角だるまを商品化へ

高崎のだるまをヒントに
三角だるまの商品化を考える



2月 市民活動支援センター(妖怪ストリートの建物3F)主催のキッズフェスティバルに参加
妖怪ナビの他に三角だるまの制作体験を実施



3月 三角だるま商品化に(日本一短い妖怪ストリートのキャラ)



村上市の仮装行列に参加(日本一短い妖怪ストリートを宣伝)



托鉢の衣装に身を包み妖怪のお面を付けて参加。多くのカメラマンに取り巻かれた。賞には入らなかったが、評判は上々だった。

最後に 日本一短い妖怪ストリートが出来てからほぼ半年が過ぎた。まだまだやれることがたくさんあると感じているが、北陸地域づくり協会の支援で日本一短い妖怪ストリートがスタートし、キャラクターがお守りとして売り出された。越後の民芸玩具であった三角だるまを子どもたちが手にする機会が増えたり、様々な動きが出ている。新潟妖怪研究所も多方面のマスコミからこの数カ月取材を受けた。県内にとどまらず、関東、関西からの問い合わせも受けている。新潟妖怪研究所としてまだまだ地域の人々に財産である昔から伝わる戒めの妖怪たちを伝え続けていくことや、おもてなし、我慢、思いやりなどの教を、子どもたちが妖怪やそこに纏わるお話で、楽しんで接してもらおうことなど考えていかなくてはならない。三角だるまの絵付け体験は子どもたちや大人の方々にも人気があり、今後も各地で実施していきたい。テクノクラフトさんが制作した妖怪ナビは好評で、5月の連休には新潟日報社のメディアシップで披露。また5月中旬から6月には水の渦ログプロジェクトにも利用されるようである。日本一短い妖怪ストリートから発信したものが今後もいろいろな形で活用され、「妖怪は文化だ」というように新潟県民の意識の中に認知されたいなあとと思っています。民話の語りや伝承なども所長を中心に続けていきたい。三角だるまは良寛さんの夢にも出てきた妖怪であるとの認識からスタートした三角だるまの活用。今後も楽しく明るく続けていきたい。新潟から全国に妖怪たちを発信していくことは今後の課題であるが、境港の視察や新潟が誇る井上円了の調査など東洋大学の方々にもご協力いただいて、続けていきたいと考えている。

最後に多くのチャンスと機会をご支援くださった関係者の皆様に感謝と御礼を申し上げて結びとしたい。ありがとうございました。

新聞の掲載

